大阪府四條畷市レベル4モビリティ・地域コミッティ キックオフ会議議事録

1. 概要

- ・日時 : 令和6年8月30日(金) 10時00分～11時00分
- ・場所 : グリーンホール田原 1階「なるなるホール」(Web併用)
- ・参加 : (一) 近畿運輸局 自動車技術安全部 技術課 植木氏
(●) 近畿運輸局 交通政策部 交通企画課 長田氏
(一) 大阪国道事務所 地域調整課 水野課長
(一) 近畿経済産業局 地域経済部
地域連携推進課 黒木課長
(一) 大阪府警察本部 交通部交通総務課 西村課長補佐
(▲) 大阪府四條畷警察署 交通課 天羽課長
(一) 近畿総合通信局 情報通信部
情報通信振興課 藤本課長
(一) 大阪府 都市整備部 交通戦略室
交通計画課 市道課長補佐
(△) 大阪府 スマートシティ戦略部
戦略推進室 戦略企画課 服部氏
(★) たわらコネクタート 旭氏
(一) 株式会社エクセイド 服部氏
(☆) 名古屋大学 赤木特任教授
(一) 建設技術研究所 道路・交通部 吉岡副部長
(一) 奈良先端科学技術 大学院大学 安本領域長
(一) 公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構
事業推進部 犬童部長
(○) 地域自治組織の代表者 奥田氏、上田氏、中島氏
(◆) 四條畷市 都市整備部 都市政策課 北田課長
(◇) 四條畷市 田原支所 笹田所長、塩見課長、斎藤氏
(一) 建設技術研究所 松井、鹿島、伊藤

※質疑応答時に発言が無かった参加者は(一)としている。

2. 打合せ資料

- ・資料1 : 大阪府四條畷市レベル4モビリティ・地域コミッティキックオフ会議次第
- ・資料2 : 大阪府四條畷市レベル4モビリティ・地域コミッティキックオフ会議資料
- ・資料3 : 事業経緯
- ・資料4 : 大阪府四條畷市レベル4モビリティ・地域コミッティ設置要綱

3. 議事要旨

キックオフ会議を行い、地域コミッティの概要や事業概要についての説明、確認等を行った。
主な議事は以下のとおり。

3.1 地域コミッティの概要（議題1～4）

（質疑なし）

3.2 資料1 実験概要について（議題5～8）

- △ 実証実験期間中において、水曜日は通常運行とし、水曜日を除く平日の実証実験については一般の方を乗車させずに実施するのか。
- ◇ 水曜日の通常運行については、サービスが定着しており、8月現在で延べ300人以上の方に乗車いただいている。そのため、実証実験においては水曜日を対象外とする。実証実験については、一般の方でも乗車したいという声があれば乗車を拒むものではない。
- △ 実証期間中においても地域住民に自動運転車に乗車してもらい、住民の意見を反映させる仕組みを検討したほうがよい。
- ◇ 承知した。

- 運転手や遠隔監視は地域ボランティアが担当するのか。
- ◇ 運転手については、地域ボランティアと専門事業者が担当する。遠隔監視については、名古屋大学の赤木先生のご指導のもと、専門の方に担当いただく。
- ☆ 遠隔監視センターはグリーンホール田原に設置する予定である。遠隔監視員は手配するが、地域住民や運行に関わっている方々にも見ていただくことは可能である。将来的には地域ボランティアの方々に携わっていただくことも考えられるため、地域住民に対して遠隔監視システムに関する要望や意見をヒアリングしてもよいと思う。

- ◆ 将来的にレベル4で運行するルートは、現在と同じルートという認識でよいか。
- ◇ 認識の通り、レベル2で運行しているルートをレベル4に置き換えるイメージである。
- ◆ また、ロードマップに記載している「市内他地域への横展開」のイメージについて教えていただきたい。
- ◇ まずは田原地域内で拡大していくことを想定している。一方で、自動運転技術の進化により、自動運転車の通行条件も変化していくと考えている。条件が整ってきた場合は、道路管理者や運行管理者と協議をして西部地域を含めて展開していきたい。
(次頁に続く)

(前頁の続き)

- ▲ 信号協調システムの導入箇所については、ルート内にある全ての信号を想定しているのか。
- ◇ 今年度については信号協調を実施しない。次年度以降実施する場合はルート上にある2か所の信号について、警察等と協議をしながら検討していきたい。

- △ 住民主体のレベル2の自動運転について、運行上の課題やレベル4を目指す必要性等を教えていただきたい。
- ★ ボランティアを募集してもなかなか人が集まらない。ドライバーは安全性を考慮するとできる限り若い方に携わってもらいたいが、平日の昼間に運行することから定年退職後から免許証返納前の世代の方がメインになる。
- ボランティア登録したが仕事の都合上、参加できない状況もある。レベル4になった際にドライバーが不要になるのであれば問題が解決すると思う。
- ◇ 運行・受付スタッフの確保が1つの課題である。年金受給が後ろ倒しになるとボランティアの確保もより難しくなる。レベル4が実現することでボランティアの負担軽減につながると考える。
- △ 運行の課題やレベル4の必要性については理解した。

以上